

会 議 録

| | |
|--------|---|
| 会議の名称 | 平成28年度第1回富士見市社会教育委員会議 |
| 開催日時 | 平成28年4月19日（火）午後7時00分～9時00分 |
| 開催場所 | 教育委員会 会議室 |
| 出席者 | 本間雄一委員、長ヶ原美博委員、吉田廣子委員、 小森重紀委員、武田秀規委員、大根田良夫委員、 岩村沢也委員、千葉純平委員、田尻 円委員 事務局 |
| 欠席者 | 搦木道代委員 |
| 公開・非公開 | 公開（傍聴人 0人） |
| 会議次第 | 1. 協議事項 （1）今年度の会議予定について （2）生涯学習課の今年度の方針について 2. 報告及び連絡事項 （1）入間地区社会教育協議会の総会について |
| 会議資料 | 定期刊行物 |
| 会議録確認 | 本間雄一委員 |

会 議 内 容 (要点記録)

◇ 開 会

○議長あいさつ

1. 協議事項

(1) 今年度の会議予定について

①関係委員などの選出について

→平成27年度と同様。入間地区社会教育協議会(理事・社会教育委員部会)、富士見市図書館協議会委員、富士見市人権教育推進協議会、入間地区人権教育推進協議会について確認。

②今年度の会議スケジュールについて

→4・5・6・9・10・12・2・3月の8回開催予定

(2) 生涯学習課の今年度の方針について

事務局より、平成28年度富士見市教育行政方針について説明。また、併せて「家庭教育支援会議(仮称)」の設置について説明を行う。委員より意見をいただく。

【議長】 PTAという立場から意見を申し上げると、学校は本当にいろんな手立てを考えてくれているが、家庭環境の影響は大きい。所得格差や経済的なところは中々立ち入れない難しい問題だと思っている。先生の立場から、家庭教育に対して感じる部分をお聞かせ願いたい。

【委員】 学校の立場から申し上げますと、今いちばんの課題は学力。例えば、家庭学習としてプリントを出すと、それを有難いと思うご家庭と、負担と感じるご家庭とにわかれる。学校で、先生方も一生懸命やっていて、子どももやっている現状があり、反復学習などについて、ご家庭で協力をいただくと非常に助かるという側面がある。自ら学ぶ子どもを育てるための支援をどうするか、学力格差ができていく現状もあり、学力をめぐる問題は今各学校で抱えている課題。また、会議などで入間地区の方々とお話をする機会が多々あり、耳にするのは非行の問題。件数は減少しているが、新聞に出る手前のような出来事をきく。青少年の健全育成という部分も、家庭での役割で大きい部分ではないか。3つ目として、心の教育がある。本来であれば、しつけなど心の教育の部分は、家庭で果たすべき役割が大きいと考えるが、学校で教えることと思われている節もあり、従来(学校は勉強・家庭はしつけ)に戻そうと、埼玉県でも「三つのめばえ」など家庭で話す機会を増やそうと施策を打ち出しているが、どこまで浸透しているかは不透明なところ。学力と健全育成と心の教育の3つが柱として挙げられると考える。

【委員】 宿題という部分で最近感じたことは、学校から出された宿題が「自由」というもの。花の水あげや、縄跳び100回飛ぶ等々・・・自主性を伸ばすということで出されている宿題ということは理解できる。しかし、1年生から家庭学習でひらがなや漢字の練習をやる、そのような小さな積み重ねがあつてこそ、自主性が生まれるのであり、積み重ねがない中で「自由」という宿題が出されて、戸惑う子もいるのではないかと。基礎をつくるという意味で、課題

を与える家庭学習は必要と感じる。

【委員】小学生を持つ親同志が、子どもの事について相談するために、未就学児の下の子を預けたりすると聞いたことがある。親は親でいろいろ迷っている。話せる場や友達がいるということは、それだけで素晴らしいことだと思った。また、悩んでいる現状もあると理解できる。

【委員】テレビで、非常に無知な若者と、知的過ぎるくらいの高校生がでていたりする。今の子ども達も2極化している傾向があるのでは。塾に行ける子と行けない子の学力の差や、家庭環境での貧困の連鎖など、なかなか断ち切るのには難しい。家庭ということで考えると、課題を課題と思わない親というのが増えているような気がする。親の意識がかわらないと現状は変えられない。

【委員】先日、高校の進路指導が理由で中学生が自殺したニュースがあった。「中学生が弱い」という声が聞かれたが、一概にそう言えないと感じている。心の強さや、生きる力というのを家庭や学校できちんと教えてきたかと問われていると思う。今は、大学の入学式にも親が同席する。子どもに教える、手をかける時期というのが、今の時代きちんとできているのか。

【委員】今は習い事でも、子どもの送迎を親が一生懸命している姿がみられる。一方で、私の職場の大学では、母子家庭の学生が非常に増えている。全員に該当するわけではないが学力不足・コミュニケーション不足・情緒不安定・うつ病など、何かを抱えている場合が傾向として多い。親を交えての面談を行ったりもするが、親も同様であったりする。また、経済的な理由から、大学を辞める学生もいて、昔は「苦学生ながら、何とか卒業まで頑張る」人が多かったが、今の学生はすぐに諦めてしまう。アルバイトでも食べていける時代。何とか生きてはいける。ただ、もう少し将来について考える姿勢があるべき。小さい頃から伝えていく必要があるのでは。先ほどの貧困のところとつながるが、いじめや孤立化、勉強の遅れなど、小さい頃に体験がある場合、どのように社会教育の分野でケアできるのか考えていきたい。

【委員】家庭教育というのは本当に広いテーマだと思う。前回提言を出した時も、市民の声をどのように拾っていくか、施策に反映できるのか、現場の声を拾うというのがとても難しいと思った。マッチングしないと意味がない。現場で必要とされていることを把握することが必要。親向けの講座というのもよく聞くが、一方的だったりする。

【委員】私の職場の大学では、大学の奨学金が貸付から貸与へかわった。経済的な支援という意味では、良かった。また、学生のアルバイトで、例えば、短時間で高収入のバイトだと危険を伴ったりもするわけだが、あまり考えず安易にやっている学生がいる。もう少し判断する時間があってもよいと思われるが、そうではない。簡単に考えているところに問題があると感じている。

【委員】母子家庭ということで考えると、子どもが小学生の時に、ある程度経済力がある親が離婚しているパターンが多い気がする。しかし、その後の中学校や高校という経済的負担が大きくなる。そこまで見越しての離婚ではないから経済的に厳しくなっているように思う。「生活のために働く」という要素が強くと、もっと子どもや親にしても「生きがい」を考えることも大事。また、最近の子どもに思うのは、例えば、挨拶について。こちらがすると、子どももする。また、目の前で「挨拶しようね」と声掛けするとする。しかし、声

掛けの大人がいなしなくなる。挨拶の大切さがわかっていない証拠。人とコミュニケーションを取るうえで、いちばん大切なことという意味をわかっていない。その部分を、昔は地域の方が教えてくれていたような気がする。今はそれが薄れてきた。親子意識調査や市民意識調査をみても、就労やお金については、市民の関心が高いと思う。また、市がいろんな施策を用意していても、親がそれを知らない。親に余裕がないように思う。学力の問題もあるが、学力以外にも子どものいいところを伝えてあげることが必要で、そこを伸ばしてあげると、自信ややる気にもつながると思う。

【委員】子どもの居場所という意味で、地域で見守るという視点は以前からある。

【委員】地域でも、未就学児や小学生については可能だが、中学生だと、地域にあまり出てこない傾向があるかもしれない。

【委員】未就学児だと増進センターでフォローしている。母子保健推進員がそれにあたる。

【委員】社会福祉協議会（ぱれっと）でも、今年、新1年生にお道具箱をプレゼントしていた。新入生の全世帯を把握している。子育て支援について、社会福祉協議会なども一緒にまともされると非常によいと思うが・・・市役所とまた別組織だと厳しい側面もあるのかもしれない。

【委員】他市の子育て支援だと、朝霞のプレイパークなど、良い評判をきく。

【委員】もし、いいものがあれば、委員として視察に行くことなども、今後いいのではないか。

【委員】今後の話になるかもしれないが、家庭教育支援にしても、検索をしたときに、母子世帯など、確実にヒットするようなネットの整備や、会議を市役所全体的にもつことによって、きちんと対応や施策がとれる場所として機能していくものが役に立っていくのではないか。

※今後の会議の方向性については、これまでの経過もあることから、事務局と議長で打ち合わせを行い決定。

2. その他

次回以降の会議日程

平成28年度第2回会議

日程：平成28年5月20日（金）午後7時～

場所：教育委員会 2階 会議室

4. 閉会 ○副議長あいさつ